

平成 28 年度 (2016)

京都大学

Kyoto University

文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム 複合領域型 (安全安心)

Program for Leading Graduate Schools, MEXT

(Multidisciplinary Field of Safety and Security)

グローバル生存学大学院連携プログラム

Inter-Graduate School Program for
Sustainable Development and Survivable Societies

Global Survivability Studies Program (GSS)

履 修 要 項

Course Guideline



京都大学学際融合教育研究推進センター

グローバル生存学大学院連携ユニット

京都市左京区吉田中阿達町 1 番地、京都大学東一条館

Center for the Promotion of Interdisciplinary Education and Research

Inter-Graduate School Unit for Sustainable Development and Survivable Societies

KYOTO UNIVERSITY HIGASHI ICHIJOKAN, 1 Yoshida-Nakaadachi-cho, Sakyo-ku, Kyoto

Tel.: 075-762-2163

<http://www.gss.sals.kyoto-u.ac.jp>

履 修 要 項（抜粋版）

目 次

1. 博士課程教育リーディングプログラム事業に係る人材養成の目的と学位授与の方針	1
■京都大学の基本理念（2001）抜粋	
■博士課程教育リーディングプログラム公募要領（2011）から	
（１）博士課程教育リーディングプログラムに係る人材養成の目的	1
（２）博士課程教育リーディングプログラムに係るアドミッション・ポリシー	1
（３）博士課程教育リーディングプログラムに係るカリキュラム・ポリシー	2
（４）博士課程教育リーディングプログラムに係るディプロマ・ポリシー	2
2. グローバル生存学大学院連携プログラム	3
3. グローバル生存学大学院連携プログラムにおけるアドミッション・ポリシー	3
（１）どのような人材を育成したいのか ―― その背景と具体像	3
（２）応募資格と履修の開始時期 ―― 誰が、いつ、どのように	4
4. グローバル生存学大学院連携プログラムのカリキュラム	6
（１）５年一貫の大学院教育―― その意義	6
（２）リーディングプログラム予科	6
（３）グローバル生存学の履修手順	7
（４）得られる学位（ディプロマ・ポリシー）	7
（５）進学審査（博士論文研究基礎力審査）	9
（６）本プログラムの修了要件と履修時期	9
（７）e ポートフォリオ	11
（８）ホームルーム	11
（９）最終審査	11
5. 履修カテゴリーについて	12
(a) グローバル生存学大学院科目群	12
(b) フィールド実習	13
(c) インターンシップ研修	13
(d) 学際ゼミナール	13
(e) 国際学術交流	13
(f) 産学連携プロジェクト	13
(g) 国際共同プロジェクト	13
6. 研究科における修了認定について	19
7. 指導教員・メンター教員・アドバイザー	21
（１）指導教員	21
（２）GSS 副指導教員	21
（３）メンター教員	21
（４）アドバイザー	21
8. プログラム履修学生への支援	22
（１）特待生奨励金	22
（２）研究活動経費	22
（３）プログラム履修経費	22
9. シラバス	22

1. 博士課程教育リーディングプログラム事業に係る人材養成の目的と学位授与の方針

京都大学の基本理念（2001）抜粋

- 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
- 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。
- 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
- 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力を持つ人材を育成する。
- 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
- 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

（以下、略）

博士課程教育リーディングプログラム公募要領（2011）から

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士前期課程・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業である。

（1）博士課程教育リーディングプログラムに係る人材養成の目的

学内外の卓越した教員・指導者との対話や産官学の協働による教育など、博士課程前期・後期一貫の質の保証された学位プログラムのもと、多様な専門分野を俯瞰し、創造的に課題解決にあたる人材、および、コミュニケーション力と国際性を備えてグローバルに活躍する人材を養成することを目的とする。

（2）博士課程教育リーディングプログラムに係るアドミッション・ポリシー

京都大学が実施する博士課程教育リーディングプログラムの目的に共感し、これを遂行するための基本的能力と教養、倫理性を兼ね備え、強い意欲をもって参加しようという人を求める。

アドミッション・ポリシーの詳細は当該プログラムにおいて定める。

(3) 博士課程教育リーディングプログラムに係るカリキュラム・ポリシー

国内外の複数の教員・指導者との対話を通じた発展的自学自習や産官学の参画による人材養成を介して、研究企画の推進力と社会への説明力、研究チームを組織し新しい研究分野を国際的に先導する能力をもって多様な専門分野を俯瞰し、創造的に課題解決にあたるために必要な能力を育む世界に通用するカリキュラムを編成・実施する。

博士論文研究基礎力審査までの学修期間においては、質の保証された多様な専門教育によって当該プログラムに関する幅広い知識を修得させるとともに、複数の教員による研究指導を通じて専門分野を総合的に理解させるカリキュラムを編成・実施する。また、産官学の協働による実践的教育などを介して、コミュニケーション力、研究・開発の計画力と推進力、自ら課題を発見する能力などを身につけさせる。

カリキュラム・ポリシーの詳細は当該プログラムにおいて定める。

(4) 博士課程教育リーディングプログラムに係るディプロマ・ポリシー

後期課程においては、当該研究科の定める期間在学して、研究科等が実施する博士課程教育リーディングプログラムのカリキュラム・ポリシーに沿った研究指導を受け、当該プログラムを修了するとともに、所定年限内に提出した博士論文について研究科が行う審査と試験に合格し、後期課程を修了することが博士の学位授与の要件である。研究科によっては、所定の授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得することを要件に含む場合がある。

多様な専門分野を俯瞰し、創造的に課題解決にあたるために必要な能力とその基盤となる学識を身につけているかどうか、および、グローバルに活躍するために必要なコミュニケーション力と国際性を蓄えているかどうか、当該プログラム修了の基準である。

前期課程において修士の学位を授与する研究科にあつては、研究科等が実施する博士課程教育リーディングプログラムのカリキュラム・ポリシーに沿って設計された授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、当該プログラムが定める博士論文研究基礎力審査に合格するとともに、所定年限内に提出した修士論文について、研究科が行う審査と試験に合格し、前期課程を修了することが修士の学位授与の要件である。

博士論文研究基礎力審査に合格するには、当該プログラムの目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得するとともに、プログラムの定めるその他の要件を満たす必要がある。

博士論文作成に必要な研究基礎力である専門基礎知識、幅広く深い知識、研究計画力、語学力を基礎とするコミュニケーション力などを備えているかどうか、博士論文研究基礎力審査合格の基準である。

研究科が行う博士論文及び修士論文の審査基準については当該研究科のディプロマ・ポリシーを参照すること。

2. グローバル生存学大学院連携プログラム

現代の地球社会では、巨大自然災害、突発的人為災害・事故、環境劣化・感染症などの地域環境変動、食料安全保障、といった危険事象や社会不安がますます拡大している。本学位プログラムでは、京都大学の9研究科と3研究所が協力することで、「グローバル生存学」(Global Survivability Studies, GSS)という新たな学際領域を開拓し、地球社会・地域社会における安全安心の担保に寄与できるグローバル人材を養成する。

なお、本プログラムは、学際融合教育研究推進センターグローバル生存学大学院連携ユニットにおいて実施・運営を行う。

3. グローバル生存学大学院連携プログラムにおけるアドミSSION・ポリシー

上記の京都大学の基本方針、京都大学における博士課程教育リーディングプログラムの考え方をふまえた上で、ここでは、グローバル生存学大学院連携プログラムが、どのような人材育成を目指し、どのように履修者を募るのかを示す。

(1) どのような人材を育成したいのか --- その背景と具体像

幅広い知識と深い専門性、柔軟な思考力と強い意志・実行力を合わせ持ち、様々な社会においてリーダーとして活躍する人材を養成することは、京都大学の使命であるとともに、産官学各界ひいては社会全体の強い要請でもある。

「グローバル生存学大学院連携プログラム」(GSS プログラム)は、京都大学における9つの研究科と3つの研究所が協働し、産業界、行政機関、国際機関、国内外の大学等と協力して、安全安心分野の先進的・学際的な大学院教育を展開し、グローバル社会のリーダーたるべき人材の育成を強力に推進する。

現代の地球社会は、①巨大自然災害、②突発的人為災害・事故、③環境劣化・感染症などの地域環境変動、④食料安全保障などの危険事象や社会不安がますます大きく、かつ、広がっている。この「グローバル生存学大学院連携プログラム」では、これらの諸問題をカバーする「グローバル生存学」という新たな学際領域を設定し(図1)、次のような人材を育成する。

- 1) 人類が直面する危機を乗り越え、人間社会を心豊かにし、その安寧に貢献するという使命感・倫理観にあふれた人材
- 2) 自らの専門性に加えて幅広い視野と知識・智慧によつて的確に対策を行うことのできる判断力・行動力を備えた人材。

グローバル生存学大学院連携プログラム(GSS)の修了者は、

- 一級の研究者・教育者として社会・安全システム科学分野で活躍するアカデミック・リーダー
- 国際機関などの世界を舞台に活躍する国際的な危機管理リーダー
- 災害・事故や経済危機を的確に対処し、企業経営を安定的・持続的に行う企業リーダー
- 食料・資源・エネルギーなどの安全保障政策の決定に指導力を発揮する国や地域のリーダー
- 社会の安全安心に寄与するための科学的知識・情報を伝えるサイエンス・コミュニケーター
- 安全安心分野で新たな技術や方法論を開発して起業するニュービジネス・リーダー

などであつて、各方面で世の中を支え、良い方向に動かしていくことのできる「人財」である。

上記のようなリーダーを志す有能な若者を本プログラムに迎え、充実した5年一貫の大学院教育によって有為な人材を育成し世に送り出し、地球社会の調和ある共存に貢献する、というのが京都大学の願いである。

なお、GSSでは達成目標として、以下の10項目を設定している。GSSの参加学生はGSSでの活動を通じて、これらの目標の達成を目指すことが求められる。

表1 グローバル生存学大学院連携プログラム履修生の達成目標（リーダーシップ要件）

GSS 目標	説 明
グローバル生存学に関する知識	グローバル生存学に関連する学際分野の知識
学際性	関連する学際科目のトピックと学際的な視野から自身の研究にアプローチする重要性の理解
プロジェクトマネジメント	プロジェクトの実行、実際の活動への移行、プロジェクトに関連する問題の観察、問題の正確な把握、確固とした解決策の提示、解決策を適用した上でのプロジェクトの実行、プロジェクトおよび自身の向上に必要な条件を認識する能力。
現実の世界的問題への対処	フィールドへ出て問題を観察・評価し、実社会の世界的な問題を認識・理解する能力。そしてこれらの問題に対して自身の専門知識を利用して解決策を提示できること。問題に対する人の解決策を受容できること。
対人コミュニケーション	適切なメディアや方法で、敬意と寛大さを持って他人とコミュニケーションをとる能力。GSSの教職員、GSSの活動で関わる外部組織、仕事やプライベートにおいて関わる他者との効果的なコミュニケーションがとれること。自身と異なる意見を持つ人々と敬意をもって交流できること。
適切なサイエンスコミュニケーション	自身の専門に関する情報について、適切なコミュニケーション手段で一般に伝える能力。内容の質を下げることなく、理解しやすい手段をとれること。
異文化交流	自身の特異性を理解し、上手く仕事を進める能力。多文化への理解、評価を表現できること。他文化の人々を自身と異なるものとして扱わず、交流する能力。
主体性の発揮	プロジェクトを計画・実行において、他者から独立して仕事を進められる能力。主体性を持ち、それぞれの状況に応じて創造性を発揮できること。自律性と独創性を持って、大抵の状況において活躍できる能力。
倫理的行動の実践	行動の結果を理解した上で、自身の研究分野における倫理問題に対して適切な回答を受け入れ、考える能力と倫理的な選択をする能力。プライバシーへの配慮、著作権を順守、剽窃の回避ができること。プレゼンテーションや筆記でのコミュニケーションの際、文化への配慮が実践できること。
タフさと人間的魅力	タフさと人間的な魅力を持って、問題に対処、解決できる能力。人間的な魅力をもつことで、仕事に関連する全ての人に対して、それぞれの利益につながるように説得できる。タフさを持つことで、どんな挑戦にも耐え、あらゆる障害に打ち勝つことができる。

（2）応募資格と履修の開始時期 --- 誰が、いつ、どのように

我が国の4年制の大学を卒業したかそれと同等の資格を持つ者で、表2のいずれかの研究科・専攻の博士前期課程に入学した者(特例として博士後期課程に入学した3年次編入した者)がこのプログラムに応募できる。国籍・性別・年齢は問わない。

応募者は、第1年度(3年次編入生は第3年度)の前学期(4月入学:4月～9月、10月入学:10

月～3月)をリーディングプログラム予科の期間(一次登録期間)に位置づけ、本プログラムの予科生(3年次編入生は3年次予備生)として所定の科目を履修し、本プログラムによる入学審査を受けて選抜された後、第1年度(3年次編入生は第3年度)の後学期(4月入学:10月、10月入学:4月)から本プログラムの本科生として登録され、本プログラムの所定のコースを履修することになる。

表2 グローバル生存学大学院連携プログラムに参画している研究科・専攻

教育学研究科	全専攻(教育科学専攻、臨床教育学専攻)
経済学研究科	全専攻(経済学専攻)
理学研究科	地球惑星科学専攻
医学研究科	医学専攻、社会健康医学系専攻
工学研究科	社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻、都市環境工学専攻、建築学専攻、機械理工学専攻
農学研究科	全専攻(農学専攻、森林科学専攻、応用生命科学専攻、応用生物科学専攻、地域環境科学専攻、生物資源経済学専攻、食品生物科学専攻)
アジア・アフリカ地域研究研究科	全専攻(東南アジア地域研究専攻、アフリカ地域研究専攻、グローバル地域研究専攻)
情報学研究科	社会情報学専攻、通信情報システム専攻
地球環境学堂・学舎	全専攻(地球環境学専攻、環境マネジメント専攻)

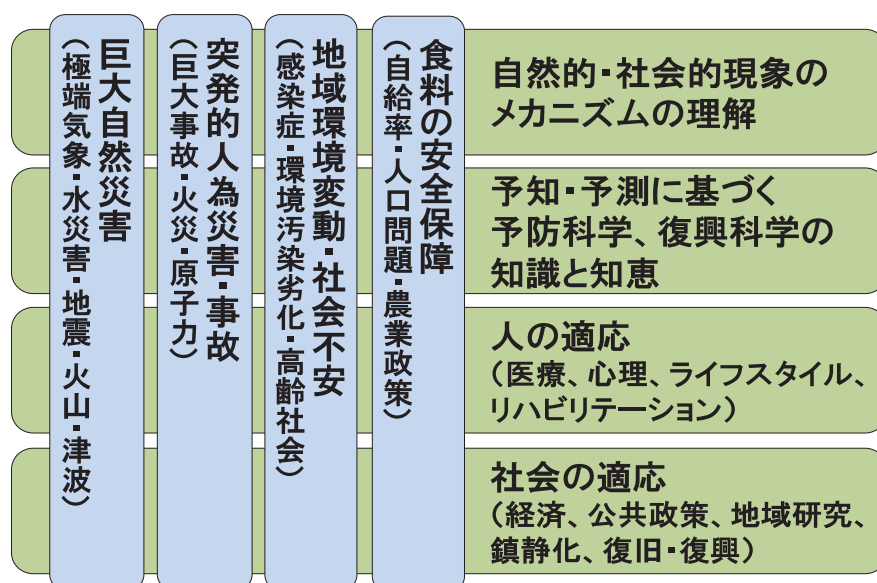


図1 グローバル生存学の範囲

4. グローバル生存学大学院連携プログラムのカリキュラム

グローバル生存学大学院連携プログラムの5年一貫の大学院教育において、大学院生がどのような内容を履修するのかを示す。

(1) 5年一貫の大学院教育 --- その意義

幅広い知識と深い専門性、柔軟な思考力と強い意志・実行力を合わせ持ち、様々な社会においてリーダーとして活躍する人材となるには、多様な経験を積むことが必要である。そのためには時間を必要とする。したがって、博士前期課程に入学した当初から、大いなる志をもって5年間の履修計画を描き自らの目標を定めて、それに合致するようなカリキュラムを選択できるものとする。

(2) リーディングプログラム予科

本プログラムでは、表2の研究科・専攻に入学した学生の中から、履修者を選抜する。ただし、入学後の半年（4月入学者：4月～9月、10月入学者：10月～3月）の間は「予科」として、予科生（3年次編入生は3年次予備生）を（4月入学者は40名以内（3年次編入は若干名）、10月入学者は若干名を募集）まず募集（4月入学者：4月、10月入学者：8～10月）する。

この予科の間に、履修候補者は、自らの研究科の課程の履修を進めるとともに、本プログラムの目的と内容を理解し、自らの能力と適性を確かめることとする。そのため、このリーディングプログラム予科期間に4月入学の予科生・3年次予備生全員を対象としたセミナーなどを行う。10月入学の予科生は、GSS推奨科目・学際ゼミナールを履修する。

また、5年間（3年次編入生は3年間）の研究計画を作成・提出させる。研究計画には予科の期間に行う自主的なインターンシップ研修やフィールド実習を含めても良い。

4月入学者（3年次編入生を含む）は7月末、10月入学者は3月初旬までに資格審査・選考を行い、プログラム履修者（予科生）の中からプログラム履修者（本科生）20名程度（3年次編入生は若干名）を選考する。

(3) グローバル生存学の履修手順

上記(2)の予科を含む5年一貫の博士課程教育リーディングプログラム「グローバル生存学大学院連携プログラム」の履修の流れを表3に示す。

なお、本プログラムは、京都大学学際融合教育研究推進センターグローバル生存学大学院連携ユニットにおいて実施する。

表3 グローバル生存学大学院連携プログラムの履修の流れ(4月入学生の場合)

年次・学期	L1 前	L1 後	L2 前	L2 後* ²	L3 前	L3 後	L4 前	L4 後	L5 前	L5 後
研究科での学位課程	コースワーク等		修士論文又は博士予備論文		学術論文執筆等				学位論文	
リーディングプログラム予科 (4月入学)	全体ゼミ									
リーディングプログラム予科 (10月入学)	* ¹									
(a) グローバル生存学大学院科目群 ◎必修 ※選択必修 □選択			◎リスク学通論、◎生存基盤食科学、◎安全安心文化学、◎グローバル生存学 (必修科目 8 単位、内 2 単位は 2 年次末までに取得すること。)* ²)							
			※情報分析・管理論(情報系共通科目)、※情報分析・管理演習(情報系共通科目)、※戦争・災害の心理臨床、※環境・リスク経済学、※技術者倫理と技術経営、※リスク公共相関論、※研究科横断型教育プログラム科目 から 2 単位 □各研究科提供科目群から 4 単位							
(b) フィールド実習			随時行う。(必修) * ²							
(c) インターンシップ研修			随時行う。(必修) * ²							
(d) 学際ゼミナール			随時行う。(必修) * ²							
(e) 国際学術交流			随時行う。(必修) * ²							
(f) 産学連携プロジェクト			産学連携プロジェクト(Ⅰ)を行う。(必修) * ² 産学連携プロジェクト(Ⅱ)を行う。(選択)							
(g) 国際共同プロジェクト			随時行う。(必修) * ²							

注1: *1 リーディングプログラム予科(10月入学)は、リスク学通論、安全安心文化学から1科目以上、情報分析・管理論、情報分析・管理演習、環境・リスク経済学から1科目以上、学際ゼミナール(6回分以上)を履修(取得)すること。

*2 L2後に基礎総合学術の素養を身につけるために着実な歩みを示しているかどうかの質保証のための進学審査(博士論文研究基礎力審査)を行うため、2年次末までに必修科目を2単位以上及び実習系課題1課題以上を取得し、この審査に合格しなければならない。

(a) 5年次末までの間に所定の科目・単位を取得すること。

(b)～(g)については5年次末までに修了すること。

注2: 3年次編入生は3年間で履修認定を受けた科目(実習系科目を含む)以外を全て履修(修得)する必要がある。

(4) 得られる学位(ディプロマ・ポリシー)

本プログラムの履修者は、

(ア) 学位研究: 自身が所属する研究科・専攻における学位研究を進め、5年満了時に研究科所定の

要件を満たして、博士の学位を取得する。

(イ) 基礎総合学術：本プログラムにおいて多様な経験を積み、社会のリーダーとして活躍しうる総合的な学術の素養を身につける。

この両方を修めることによって、最終的に得られる学位記には、

本学大学院〇〇学研究科〇〇専攻の博士課程を修了したので博士（総合学術）の学位を授与する

又は

本学大学院〇〇学研究科〇〇専攻の博士課程を修了したので博士（〇〇）の学位を授与する

本学グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する

と記される。

表 4 に示すように、研究科ごとに得られる学位名称が異なることに留意されたい。

表 4 プログラム修了後に得られる学位記の記述（平成 27 年 4 月現在）

教育学研究科	本学大学院教育学研究科〇〇専攻の博士課程を修了したので博士（教育学）の学位を授与する 本学グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する
経済学研究科	本学大学院経済学研究科経済学専攻の博士課程を修了したので博士（経済学）の学位を授与する グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する
理学研究科	本学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の博士課程を修了したので博士（理学）の学位を授与する グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する
医学研究科	本学大学院医学研究科医学専攻の博士課程を修了したので博士（医学）の学位を授与する グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する 又は 本学大学院医学研究科社会健康医学系専攻の博士後期課程を修了したので博士（社会健康医学）の学位を授与する グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する
工学研究科	本学大学院工学研究科〇〇専攻の博士課程を修了したので博士（工学）の学位を授与する グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する
農学研究科	本学大学院農学研究科〇〇専攻の博士課程を修了したので博士（農学）の学位を授与する グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する
アジア・アフリカ地域研究研究科	本学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科〇〇専攻の博士課程を修了したので博士（地域研究）の学位を授与する グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する
情報学研究科	本学大学院情報学研究科〇〇専攻の博士課程を修了したので博士（総合学術）の学位を授与する
地球環境学 堂・学舎	本学大学院地球環境学舎〇〇専攻の博士課程を修了したので博士（地球環境学）の学位を授与する グローバル生存学大学院連携プログラムを修了したことを証する

(5) 進学審査（博士論文研究基礎力審査）

博士前期課程の終盤（2 年次末）には、学位研究面での質保証がなされる。各研究科・専攻によっては修士論文が課され修士（〇〇）の学位を与えられることがある。修士論文に相当する博士予備論文を課す研究科・専攻もある。また、専門職学位課程によっては、課題研究が課されることもある。

これらについては、各研究科のディプロマ・ポリシーを参照されたい。

さらに、本プログラムにおいては、同じ時期に、基礎総合学術の素養を身につけるために着実な歩みを示しているかどうかの質保証のための進学審査（博士論文研究基礎力審査）が実施されるので、この審査に合格しなければならない。

審査の基準・方法

- (ア) 所属研究科の履修において、それぞれの研究科の定める修士学位取得に必要な単位数等の基準に達していること。（医学研究科医学専攻を除く。）
- (イ) 所属研究科の定める修士論文またはそれに相当するもの（以下、「修士論文等」という。）が当該研究科に提出され、かつ当該研究科において修士学位論文と同等以上の学術的内容があると認められていること。（医学研究科医学専攻を除く。）
- (ウ) 所属研究科において博士後期課程進学試験またはそれに相当するものに合格していること。（医学研究科医学専攻を除く。）
- (エ) 当プログラムのカリキュラム（英語力審査を含む）の履修において、必修科目を 2 単位以上及び実習系課題 1 課題以上を取得していること。
- (オ) 修士論文等の要旨及び博士後期課程における研究計画について、英文で作成し、その内容が当プログラムの求める博士論文研究着手のための要件を満たしていること。（医学研究科医学専攻を除く。）
- (カ) 医学研究科医学専攻については、研究の進捗状況及び今後の研究計画を英文で作成し、その内容が当プログラムの求める基準に達していること。
- (キ) 上記（オ）、（カ）に関して、英語による口頭試問 1 人 25 分（10 分発表、15 分質疑）を 3 月上旬に行う。

(6) 本プログラムの修了要件と履修時期

グローバル生存学大学院連携プログラムを修了して表 4 に示すリーディングプログラムの学位取得を目指す者は、研究科における所定の課程及び学位研究と並行して、次の (a)～(g) のカテゴリーすべてを履修し合格しなければならない。

(a) グローバル生存学大学院科目群

安全安心分野における幅広い知識と深い専門性を涵養するために、9 つの研究科から提供される講義を受講する。科目群より 4 科目 8 単位の必修科目と、2 単位の選択必修科目、4 単位の選択科目を修める。

(b) フィールド実習

学際的・多面的にフィールドから学び、かつ研究計画を遂行するために、各自でフィールド実習を計画し実施する。

(c) インターンシップ研修

柔軟な思考力と強い意志・実行力を養成することを目的として、産業界、行政機関、国際機関、国

内外の大学等へのインターンシップを実施する。

(d) 学際ゼミナール

個別分野の研究に埋没することなく複眼的な視野を養成するために、幅広い分野の研究に関するゼミナールに参加し、討論を通じて見識を養う。

(e) 国際学術交流

国際スクール（国内外他大学の学生も含め集中形式で実施される講義・実習・討論等）への参加、あるいは国際学術会議での研究報告を通じて、国際的な適応力と研究遂行能力を育成する。

(f) 産学連携プロジェクト

学生本人の発案のもとに、企業等の職員をパートナー（少人数グループでも良い）として、数か月程度のプロジェクトの計画を立案し、そのパートナーとともにプロジェクトを実施する。計画に同調する者を企業の組織や個人に求め、リーダーシップをとってそれを完遂する能力を養う。企業に自分を知ってもらい、自分も企業を知る、キャリアパス開拓の意義もある。

複数回のプロジェクト（**産学連携プロジェクト（Ⅱ）**）実施を推奨する。

(g) 国際共同プロジェクト

学生本人の発案のもとに、海外の協力提携組織（大学、研究所、企業）やNGO、NPO、個人のパートナー（外国の学生相手でも良い）とともに2国間（多国間）の研究プロジェクト、イベントなどを企画し、リーダーシップをとってそれを完遂する国際的な能力を養う。

(7) eポートフォリオ (The “GSSfolio Karuta 1.1” System)

グローバル生存学大学院連携プログラム履修者は、履修・成績・達成度の自己点検・評価を目的として、eポートフォリオを使用して活動記録を作成することが求められる。履修者は、グローバル生存学大学院連携プログラムが提供する各授業の履修課程において適宜eポートフォリオを更新し、指導教員等の閲覧に供しなければならない。eポートフォリオに記載された活動記録は、進級審査・特待生奨励金の継続審査等の評価の一部として使用される。

表5 カリキュラムマップ

GSS 目標	リーディング科目群	フィールド実習	インターンシップ研修	学際ゼミナール	国際学術交流	産学連携プロジェクト	国際共同プロジェクト
グローバル生存学に関する知識	◎			○	○		
学際性	◎			◎			
プロジェクトマネジメント						◎	◎
現実の世界的問題への対処		◎	○			○	○
対人コミュニケーション		○	○			○	○
適切なサイエンスコミュニケーション					◎	○	
異文化交流			◎				○
主体性の発揮						◎	◎
倫理的行動の実践		○	○			○	○
タフさと人間的魅力	○	○	○	○	○	○	○

◎：その科目での達成が必須である目標

○：その科目で達成することが推奨される目標

(8) ホームルーム

グローバル生存学大学院連携プログラム履修者は、GSS ホームルームに参加しなければならない。GSS ホームルームは、L1 後半と L2 前半に在籍の履修者を対象とした無単位の必修科目である。GSS ホームルームは原則月 1 回の頻度でメンター教員によって開催される。ホームルームの出席状況は、進学審査・特待生奨励金の継続審査等の評価の一部として使用される。

なお、L2 後半以降の在籍者については、特に指定がない場合は参加自由である。ただし、GSS ホームルームの実施内容によっては参加を推奨される場合がある。

(9) 最終審査

本プログラム修了時、プログラムの求める学位研究および基礎総合学術の両方を修めたことを確認するために、最終審査を行う。本プログラムの課程修了を認められるために、この審査に合格しなければならない。

審査基準・方法

GSS 履修者のうち、以下の(ア)から(エ)を満たしている者、または満たす見込みの者

(ア) 所属研究科において学位論文審査願を提出すること。

- (イ) 学位取得までに GSS 履修要項に定める以下の全てのカテゴリーを履修し合格すること。
- a. グローバル生存学大学院科目群
 - b. フィールド実習
 - c. インターンシップ研修
 - d. 学際ゼミナール
 - e. 国際学術交流（旧名：国際スクール）
 - f. 産学連携プロジェクト
 - g. 国際共同プロジェクト
- (ウ) 学位取得までに GSS 履修要項に定めるグローバルリーダーとしての目標（10 項目のリーダーシップ要件）を達成し、リーダーとしての資質を備えたと認められること。
- (エ) 学位論文において、グローバル生存学としての問題意識と活動等が寄与した内容が優れていること。
（学位論文の問題設定・研究方法・分析等と履修した GSS プログラムとの関わりが修了調査時に提出する GSS プログラム論文概要に明記されていること。）
- (オ) 上記（イ）及び（ウ）の学びの実績は、GSSfolio に記録されていること。
- (カ) 当該学生に対して組織される「GSS プログラム修了審査委員会」は、上記（イ）から（エ）の審査基準を満たすかどうか調査を行う。
- (キ) 上記（カ）の調査には、学位論文要旨及び GSS プログラム論文概要に基づき、英語による最終審査報告会を含む。

5. 履修カテゴリーについて

上記の各履修カテゴリーそれぞれについてその内容を以下に示す。

(a) グローバル生存学大学院科目群（表 6）

必修科目（4 科目 8 単位）：グローバル生存学において修めるべき共通的な知識や知恵を学ぶ。以下の 4 科目を必修とする。

- リスク学通論（2 単位、医学研究科、後期）
- 生存基盤食科学（2 単位、農学研究科、前期）
- 安全安心文化学（2 単位、教育学研究科、後期）
- グローバル生存学（2 単位、工学研究科、前期）

選択必修科目（2 単位）：以下の科目のうちから興味のある科目を選択し、2 単位以上修得すること。

- 情報分析・管理論（2 単位、情報系共通科目、情報学研究科、前期、後期）
- 情報分析・管理演習（1 単位、情報系共通科目、情報学研究科、前期、後期）
- 戦争・災害の心理臨床（2 単位、教育学研究科、前期）
- 環境・リスク経済学（2 単位、経済学研究科、後期）
- 技術者倫理と技術経営（2 単位、工学研究科、前期）
- リスク公共相関論（2 単位、アジア・アフリカ地域研究研究科、前期）
- 研究科横断型プログラム科目（グローバル生存学大学院必修科目を除く）

研究科横断型プログラム科目については、

URL：<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/cross/>で確認すること。

選択科目（4単位）：表6に示した研究科・専攻から、安全安心分野のグローバル生存学大学院連携プログラムにおいて履修が推奨される科目群のなかから4単位以上修得すること。

グローバル生存学大学院科目群の内、所属研究科以外で開講される科目を履修する場合は、所属研究科が指定した期間に他研究科聴講願を提出しなければ履修できないので注意すること。また、本プログラムで修得した単位を学生が所属する研究科の修了要件とできるかどうかについては、研究科によって異なり、20ページの表8に示す通りであるので注意すること。

(b) フィールド実習

以下のフィールド実習のいずれかを履修し、履修評価・認定を得ること。フィールド実習の実施計画案をGSSfolioで提出して、指導教員とGSSメンター教員の認可を得てから実施すること。

○海外フィールド実習：海外のフィールドに1週間以上の期間滞在し、観測・実験・調査などを行う。

○国内フィールド実習：国内のフィールドに1週間以上の期間滞在し、観測・実験・調査などを行う。

(c) インターンシップ研修

以下のインターンシップ研修のいずれかを履修し、履修評価・認定を得ること。インターンシップ研修の実施計画案をGSSfolioで提出して、指導教員とGSSメンター教員の認可を得てから実施すること。

○海外インターンシップ研修：海外の研究機関や企業などの組織に1週間以上の期間滞在し、研修を行う。

○国内インターンシップ研修：国内の研究機関や企業などの組織に1週間以上の期間滞在し、研修を行う。

(d) 学際ゼミナール

本プログラムにおいて開講する学際ゼミナールを15コマ履修（内4コマは、リーダーシップ育成ワークショップを履修すること）し、認定を得ること。

(e) 国際学術交流

下記の国際スクール（1週間程度の期間を有するもの）に参加して履修評価・認定を得ること。あるいは国際学術会議で筆頭報告者として2回以上の発表を行うこと。いずれも履修計画書・実施計画書をGSSfolioで提出して、指導教員とGSSメンター教員の認可を得てから履修・実施すること。

○名古屋大学・京都大学ユネスコIHP研修コース

○国連大学・京都大学研修コース

○国内で随時開催される国際的な研修コースやスクール

○海外で随時開催される国際的な研修コースやスクール

(f) 産学連携プロジェクト

以下の産学連携プロジェクトを履修（実施）し、履修評価・認定を得ること。プロジェクトの実施計画案をGSSfolioで提出して、指導教員とGSSメンター教員の認可を得てから実施すること。

○産学連携プロジェクトⅠ（必修）

○産学連携プロジェクトⅡ（選択）

(g) 国際共同プロジェクト

以下の国際共同プロジェクトを履修（実施）し、履修評価・認定を得ること。プロジェクトの実施計画案をGSSfolioで提出して、指導教員とGSSメンター教員の認可を得てから実施すること。

○国際共同プロジェクト

表6 グローバル生存学大学院科目群

必修科目：

研究科	必修科目番号	科目コード	科目名	担当教員	単位数	開講期	曜日 時限	備 考
医学研究科	GSS-1	Z007	リスク学通論	木原正博ほか	2	後期	水・1	英語
農学研究科	GSS-2	X001	生存基盤食料学	栗山浩一ほか	2	前期	金・3, 4	隔週開講 英語
教育学研究科	GSS-3	8940000	安全安心文化学	工藤晋平・ラウ フ・フランス	2	後期	木・1, 2	英語
工学研究科	GSS-4	10F113	グローバル生存学	寶馨ほか	2	前期	木・5	英語

選択必修科目：

研究科	科目コード	科目名	担当教員	単位数	開講期	曜日 時限	備 考
情報学研究科	8018000	情報分析・管理論	浅野泰仁・ 加藤誠	2	前期	月・4	演習も一緒に履修することが望ましい
情報学研究科	8019000	情報分析・管理演習	加藤誠・ 浅野泰仁	1	前期	月・5	
情報学研究科	8018001	情報分析・管理論	浅野泰仁・ 加藤誠	2	後期	月・4	内容は前期と同じ
情報学研究科	8019001	情報分析・管理演習	加藤誠・ 浅野泰仁	1	後期	月・5	
教育学研究科	8942000	戦争・災害の心理臨床	工藤晋平	2	前期	木・2	☆英語
経済学研究科	6749000	環境・リスク経済学	依田高典・ 伊藤伸幸	2			H28 不開講英語
工学研究科	10G057	技術者倫理と技術経営	榎木哲夫ほか	2	前期	木・3	
アジア・アフリカ地域研究研究科	5133	リスク公共相関論	西真如・ 吉川みな子	2	前期	木・4	英語
研究科横断型プログラム科目(Aタイプに限る。)◇				2			

☆隔年開講科目で28年度開講

◇研究科横断型プログラム科目については、URL：<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/cross/>で確認すること。

選択科目：グローバル生存学大学院連携プログラムに参画する研究科・専攻が推奨する科目

(注)ここに挙げている科目は、平成28年4月現在のものである。教員の異動や研究科のカリキュラム変更などによって変更や追加がありうる。変更・追加のあったもので次年度以後の履修要項に掲載される科目も履修可能とする。

研究科	科目コード	科目名	担当教員	単位数	開講期	曜日 時限	備考
教育学研究科	6114000	国際教育研究フロンティア A	エマニュエル マナロ	2	前期	集中	英語*
	6116000	国際教育研究フロンティア C	齋藤直子・ポール ス タンディッシュ	2	後期	集中	英語*
	6232000	比較教育学特論 I	杉本均	2	前期	金・4	*
	6276000	教育方法特論 I	西岡加名恵	2	前期	水・3	*

教育学 研究科	6277000	教育方法特論Ⅱ	石井英真	2	後期	火・2	*
	6304000	教育学演習Ⅰ	鈴木晶子・山名淳	2	前期	水・3,4	隔週開講 *
	6305000	教育学演習Ⅱ	山名淳	2	後期	水・3,4	隔週開講 *
	6480000	発達科学特論Ⅰ	明和政子・森口佑介	2	前期	火・2	*
	6481000	発達科学特論Ⅱ	明和政子・森口佑介	2	後期	火・2	*
	7261000	教育社会システム論	中澤渉	2	後期	集中	*
	7268000	生涯教育学研究Ⅰ	渡邊洋子	2	後期	火・4,5	隔週開講
	7484000	生涯教育学講読演習	西岡正子	2	前期	月・3	*
	8826000	臨床実践フィールド演習	皆藤章・高橋靖恵	4	通年	前期水・3 後期火 5,6	*博士 後期課程
	8941000	暴力・犯罪の心理臨床	工藤晋平	2	—	—	☆*
経済学 研究科	2091000	国際農業分析Ⅰ	久野秀二	2	前期	月・3-5	英語・ 隔週開講
	2094000	国際農業分析Ⅱ	久野秀二	2	後期	月・3-5	英語・ 隔週開講
	2183000	環境経済分析Ⅰ	諸富徹	2	前期	水・1,2	隔週開講
	2185000	環境経済分析Ⅱ	諸富徹	2	後期	水・1,2	隔週開講
	5009000	中級マクロ経済学	片山宗親	2	前期	水・2	
	5011000	中級ミクロ経済学	小島専孝	2	前期	水・2	
	5015000	中級計量経済学	西山慶彦	2	後期	火・1	
	5025000	社会経済学・理論Ⅰ	佐々木啓明	2	前期	火・3	
	5035000	政策論基礎Ⅰ	岩本武和ほか	2	—	—	不開講
	6043000	産業経済学	依田高典	2	前期	水・3	
	5021000	経営学原理	梶山泰生	2	後期	水・2	
	6291000	管理会計論Ⅰ	澤邊紀生	2	後期	火・2	
	6744000	開発経済学Ⅰ	高野久紀	2	前期	木・1	英語
	6746000	開発経済学Ⅱ	高野久紀	2	後期	木・1	英語
	6787000	厚生経済学	岡 敏弘	2	後期	木・4-5	隔週
理学 研究科	5016	大気圏物理学ⅠⅠ	余田成男ほか	2	前期	水・2	日本語・ 英語
	5017	大気圏物理学ⅠⅡ	余田成男ほか	2	後期	月・4	英語★
	5020	大気圏物理学ⅢⅠ	(生存研)塩谷雅人ほか	2	前期	木・3	H28 不開講
	5021	大気圏物理学ⅢⅡ	(生存研)津田敏隆ほか	2	後期	月・3	
	5044	環境地球科学ⅠⅠ	(防災研)寺島智巳ほか	2	前期	月・5	
	5045	環境地球科学ⅠⅡ	(防災研)釜井俊孝ほか	2	後期	木・2	★
	5052	応用気象学ⅡⅠ	(防災研)石川裕彦ほか	2	前期	木・4	
	5053	応用気象学ⅡⅡ	(防災研)石川裕彦ほか	2	後期	木・2	英語
	5217	多階層地球変動科学実習Ⅰ	余田成男ほか	2	随時	—	日本語・ 英語
	5218	多階層地球変動科学実習Ⅱ	(生存研)津田敏隆ほか	2	随時	—	日本語・ 英語
	6002	多階層地球変動科学特論: 固体圏 科学	平原和朗ほか	2	前期	月・4,5	日本語・ 英語
	6003	多階層地球変動科学特論: 地球物 質科学	平島崇男ほか	2	前期	月・4,5	日本語・ 英語★

医学 研究科	H118	疫学Ⅰ（疫学入門）	中山健夫	1	前期	金・3,4	
	H009	社会疫学Ⅰ	木原雅子	2	前期	月・3	
	H019	社会疫学Ⅱ	木原雅子	2	後期	月・3	
	H020	人間生態学	(東南研)坂本龍太	2	後期	月・4	
	H027	地域保健医療福祉論	里村一成	2	後期	木・3,4 (前半)	
	H028	国際保健学	里村一成	2	後期	木・3,4 (後半)	
	H030	健康情報学	中山健夫	2	後期	金・2	
	H070	感染症疫学	木原正博	1	前期	木・2 (後半)	英語
	H124	産業・環境衛生学	小泉昭夫	1	前期	木・2 (前半)	
	H088	環境・感染論	(東南研)西沢光昭	2	後期	火・5	
	H128	世界における医療制度・政策 (Healthcare Systems and Policies around the World)	今中雄一	1	前期	水・2 (前半)	英語
	H097	医療制度・政策	今中雄一	1	前期	水・2 (後半)	
工学 研究科	10A216	水文学	立川康人・市川温・萬 和明	2	後期	火・2	英語★
	10A222	水資源システム論	(防災研)堀智晴・田中 賢治	2	前期	火・1	☆
	10A632	都市代謝工学	高岡昌輝・倉田学児・ 大下和徹	2	前期	火・3	英語
	10A626	環境衛生学特論	高野裕久	2	前期	火・4	
	10B052	構造安全制御	(防災研)中島正愛・倉 田真宏	2	後期	水・1	
	10B222	環境制御工学特論	原田和典・上谷芳昭	2	前期	月・2	
	10B241	都市災害管理学	(防災研)川瀬博・松島 信一	2	後期	火・3	
	10B407	ロボティクス	松野文俊	2	後期	月・2	
	10F019	河川マネジメント工学	細田尚・岸田潔・音田 慎一郎	2	前期	水・1	
	10F065	水域社会基盤学	細田尚・立川康人ほか	2	後期	火・3	英語
	10F077	流域治水砂防学	(防災研)中川一ほか	2	前期	月・1	☆
	10F100	応用水文学	(防災研)堀智晴ほか	2	前期	水・4	英語
	10F103	環境防災生存科学	(防災研)寶馨ほか	2	前期	月・4	英語
	10F219	人間行動学	藤井聡	2	前期	月・5	
	10F223	リスクマネジメント論	(防災研)横松宗太・ CRUZ NARANJO, Ana Maria	2	後期	水・3	英語
	10F241	ジオコンストラクション	木村亮・岸田潔	2	後期	金・1	
	10F245	開水路の水理学	細田尚・音田慎一郎	2	前期	金・1	英語★
	10F261	地震・ライフライン工学	清野純史・(防災研)五 十嵐晃	2	前期	火・4	英語
	10F267	水文気象防災学	(防災研)寶馨ほか	2	前期	月・3	☆
	10F269	沿岸・都市防災工学	(防災研)間瀬肇ほか	2	前期	水・2	★
	10F439	環境リスク学	米田稔ほか	2	前期	水・4	英語

工学 研究科	10F458	新環境工学特論Ⅱ	高岡昌輝ほか	2	後期	月・5	英語
	10F464	水工計画学	立川康人・市川温	2	前期	金・2	
	10F466	流域環境防災学	(防災研)藤田正治ほか	2	前期	月・3	★
	10G013	動的システム制御論	榎木哲夫ほか	2	前期	火・2	
	10X333	災害リスク管理論	(防災研)多々納裕一・横松宗太	2	前期	水・4	英語
	10Z003	都市交通政策マネジメント	中川大・藤井聡ほか	1	前期 (集中)	水・4	◇
	693287	防災情報特論	(防災研)多々納裕一 ほか	2	前期	水・3	◆
農学 研究科	BA01	森林・人間関係学	神崎 護	2	後期		★英語 対応
	BA03	熱帯林環境学特論	北島 薫	2	後期	未定	☆英語 対応
	BA04	熱帯森林資源学特論	北島 薫	2	前期		★英語 対応
	BA11	山地保全学特論	小杉賢一朗、中谷加奈	2	後期	—	★
	BA32	生物機能材料学Ⅱ	(生存研)矢野浩之ほか	2	前期	金・3	☆
	CA11	植物栄養学講義	間藤徹、小林優	1	前期 (集中)	月 3～6	英語対応
	CA13	森林代謝機能化学講義	(生存研)梅澤俊明ほ か	1	前期 (集中)	月 3～6	
	CA28	Applied Microbiology for Human Life	小川 順、阪井 康能、 喜多恵子	1	後期 (集中)		★英語
	CA29	Advanced Applied Biochemistry	植田和光、植田充美、 (生存研)渡邊隆司	1	後期 (集中)		★英語
	CA30	Bioorganic Chemistry	宮川恒、(化研) 平竹 潤	1	後期 (集中)	未定	☆英語
	EA21	水環境工学	川島茂人	2	前期	火・2	★ 英 語 対 応
	FA49	地域環境経済学 1A	梅津千恵子	2	前期		英語対応
	FA50	地域環境経済学 1B	梅津千恵子	2	後期		英語対応
	FA51	地域環境経済学 2A	梅津千恵子	2	前期		英語対応
	FA52	地域環境経済学 2B	梅津千恵子	2	後期		英語対応
	FA55	食料・環境政策学 2A	伊藤順一	2	前期	月・3	英語対応
	FA56	食料・環境政策学 2B	伊藤順一	2	後期	月・3	英語対応
	FA57	森林政策学 1A	栗山浩一	2	前期	木・2	英語対応
	FA58	森林政策学 1B	栗山浩一	2	後期	木・2	英語対応
	FA59	森林政策学 2A	栗山浩一	2	前期	木・2	英語対応
	FA60	森林政策学 2B	栗山浩一	2	後期	木・2	英語対応
	FA83	森林資源経済学 A	未定	2	前期	水・2	英語
	FA84	森林資源経済学 B	三谷羊平	2	後期 (集中)	水・2	英語対応
アジア・ア フリカ地 域研究	1102	自然生態論Ⅱ	古澤拓郎	2			H28 不開 講
	1104	社会生態論Ⅱ	竹田晋也	2	前期	火・2	
	2302	社会動態論Ⅱ	平野（野元）美佐	2	後期	水・2	

アジア・アフリカ地域研究	1102	自然生態論Ⅱ	古澤拓郎	2			H28 不開講
	1104	社会生態論Ⅱ	竹田晋也	2	前期	火・2	
	2302	社会動態論Ⅱ	平野（野元）美佐	2	後期	水・2	
	2303	生態史論Ⅰ	重田眞義	2	後期	火・5	
	3112	平和共生論の基礎	中溝和弥	2	前期	金・3	
	3113	持続型生存基盤研究の方法	河野泰之	2	後期	木・1	
	5107	環境・感染症論	西渕光昭	2	後期	火・5	
情報学研究科	3287000	防災情報特論	(防災研)多々納裕一ほか	2	前期	水・3	日本語
	3291000	危機管理特論	(防災研)林春男ほか	2	前期	水・1	H28 不開講・日本語
	3646000	リモートセンシング工学	(生存研)山本衛ほか	2	後期	月・4	日本語
	3683000	大気環境光電波計測	(生存研)津田敏隆ほか	2	後期	月・5	英語
地球環境 学舎・学舎	3213	社会基盤親和技術論	勝見武・乾徹	1	前期	水・1	英語
	3251	流域水環境管理論	藤井・田中・原田	1	前期	火・1	英語

＊：教育学研究科提供科目に関しては、履修の前に担当教員に履修要件等について確認すること

◇：工学研究科交通政策研究ユニット開設科目

◆：工学研究科開設科目で、情報学研究科提供科目

★：隔年開講科目で 28 年度開講

☆：隔年開講科目で 29 年度開講

英語対応：留学生受講の場合は英語にて実施

6. 研究科における修了認定について

各研究科においては、博士前期課程（修士課程）、博士後期課程において表7のような単位数を修了要件としている。グローバル生存学大学院連携プログラムにおいて独自に開講する科目、各研究科が提供する科目について、学生が所属する研究科の修了要件とできるかどうかについては、研究科によって異なり、表8に示す通りである。

表7 グローバル生存学大学院連携プログラムに参画している研究科・専攻の修了要件（平成28年度）

研究科	専攻	修士・専門職 学位課程 履修単位数	博士課程 履修単位数	備考
教育学研究科	教育科学専攻	30 単位	博士論文	博士は臨床実践指導学講座のみ 20 単位以上
	臨床教育学専攻	修士論文		
経済学研究科	経済学専攻	30 単位 修士論文	博士論文	
理学研究科	地球惑星科学専攻	30 単位 修士論文	博士論文	
医学研究科	医学専攻	30 単位・博士論文		4 年制
	社会健康医学系専攻	30 単位	6, 13 あるいは 19 単位 博士論文	医療系（13 単位）か 非医療系（19 単位）か、 あるいは、本専攻の専門職学位課程修了者（6 単位）かどうかで博士の履修単位数は異なる。
工学研究科	社会基盤工学専攻	30 単位 修士論文	10 単位 博士論文	
	都市社会工学専攻			
	都市環境工学専攻			
	建築学専攻			
	機械理工学専攻			
農学研究科	農学専攻	30 単位 修士論文	博士論文	
	森林科学専攻			
	応用生命科学専攻			
	応用生物科学専攻			
	地域環境科学専攻			
	生物資源経済学専攻			
	食品生物科学専攻			
アジア・アフリカ地域研究研究科	東南アジア地域研究専攻	40 単位 博士予備論文 博士論文		5 年一貫制
	アフリカ地域研究専攻			
	グローバル地域研究専攻			
情報学研究科	社会情報学専攻	30 単位	6 単位	
	通信情報システム専攻	修士論文	博士論文	
地球環境学堂 ・学舎	地球環境学専攻		6 単位 博士論文	インターンシップ・修士・博士各 10 単位
	環境マネジメント専攻	30 単位 修士論文	14 単位 博士論文	

表8 グローバル生存学大学院連携プログラムに参画する研究科の修了認定科目について

教育学研究科	原則として、グローバル生存学大学院連携プログラムにおいて独自に開講する科目、教育学研究科以外が提供する科目は、教育科学専攻および臨床教育学専攻の修了要件とすることはできない。但し、学生による事前の届け出により承認を受けた科目については、修了単位として認められる。
経済学研究科	リーディング大学院に登録した学生は、経済学研究科の修了単位のうち、特別講義として6単位を上限に、リーディング大学院で開講されている科目を修了単位として認める。
理学研究科	大学院理学研究科地球惑星科学専攻の修士課程修了要件に従い、グローバル生存学大学院連携プログラムにおいて独自に開講する科目、他専攻および他研究科が提供する科目、および理学部との共通科目の合計4単位を上限として、課程修了のための単位とできる。ただし、課程修了のための単位とするには、原則として、各セメスター開始後2ヶ月以内に指導教員に願い出て、専攻会識の承認を得ておく必要がある。
医学研究科	グローバル生存学大学院連携プログラムにおいて独自に開講する科目、各研究科が提供する科目は、医学専攻あるいは社会健康医学系専攻の修了単位として認定できない。
工学研究科	各専攻が学修要覧に記載している科目配当表から、科目区分ごとに指定される単位数を満たし、かつ合計が課程修了の必要単位数を満たすことが必要。ただし科目配当表に記載のない工学研究科の科目、他研究科で単位科目として認定された科目であっても、事前に学生の届出により専攻長が認めた科目については修了単位として認められる。細部は専攻によって異なる。
農学研究科	グローバル生存学大学院連携プログラムにおいて開講される科目は、修士課程においては、専攻教授会の承認によって修了後に必要な単位として認められる。なお、専攻により、事前の手続きや修了要件が異なるため、必ず各専攻事務室に確認すること。
アジア・アフリカ地域研究研究科	一貫制博士課程において、グローバル生存学大学院連携プログラムおよび他研究科が提供している科目の単位は、10単位まで修了要件として認める。ただし、他研究科科目を履修する場合は、本研究科の指定日までに聴講願を教務掛に提出する必要がある。また、第3年次編入した者については、本研究科開講科目より10単位修得が必要である。
情報学研究科	リーディング大学院に登録した社会情報学専攻の学生は、指導教員の承認があれば、情報学研究科修士課程の修了単位のうち、10単位を上限に、リーディング大学院で開講されている科目を修了単位として認める。 通信情報システム専攻については、グローバル生存学大学院連携プログラムにより独自に開講されている科目を履修した場合は、増加単位となる。但し、学生による事前の届け出により承認を受けた科目については、修了単位として認められることがある。

地球環境学堂・学舎	修士課程については、他研究科科目を4単位まで修了要件として認める。
-----------	-----------------------------------

7. 指導教員・GSS 副指導教員・メンター教員・アドバイザー

グローバル生存学大学院連携プログラムにおいては、履修者を適切に指導するため各学生に対して、学生が所属する研究科の指導教員（主指導教員及び副指導教員）と所属する研究科以外の GSS 副指導教員をおく。加えて、GSS メンター教員をおくこととする。

指導教員及び GSS 副指導教員は、グローバル生存学大学院連携プログラムのプログラム担当者、プログラム協力者、産官学アドバイザー、国際アドバイザーのいずれかでなければならない。

プログラム担当者、プログラム協力者、産官学アドバイザー、国際アドバイザーとその役割については、学際融合教育研究推進センターグローバル生存学大学院連携ユニットにおいて定める。

（1）指導教員

グローバル生存学大学院連携プログラム履修者は、所属研究科の指導教員（副指導教員制度がある場合は副指導教員も含めて）を GSS 事務室に届け出なければならない。履修者は、指導教員との相談・確認を経てプログラムの履修を遂行する必要がある。指導教員に変更が生じた場合は、GSS 事務室に届け出なければならない。なお、「プログラム担当者」でない指導教員は、履修者が修了するまでの間「プログラム協力者」として登録される。

（2）GSS 副指導教員

グローバル生存学大学院連携プログラム履修者は、所属研究科（兼務等を含む）以外の京都大学専任教員1名を GSS 副指導教員としなければならない。また、産官学アドバイザー、国際アドバイザーから1名を GSS 副指導教員として追加することができる。履修者は希望する教員と面談のうえ GSS 副指導教員を決定し、GSS 事務室に届け出なければならない。なお、GSS 副指導教員に変更が生じた場合は、GSS 事務室に改めて届け出なければならない。「プログラム担当者」でない GSS 副指導教員は、履修者が修了するまでの間「プログラム協力者」として登録される。

（3）メンター教員

グローバル生存学大学院連携プログラム履修者には、プログラム履修の支援を目的としてメンター教員が割り当てられる。履修者は、メンター教員と適宜連絡を取り合いながら、プログラムの履修を進める。メンター教員は、履修者1名に対して1～2名割り当てられる。担任するメンター教員は、学期の初めに通知される。

（4）アドバイザー

グローバル生存学大学院連携プログラム履修者は、グローバル生存学大学院連携ユニットにおいて定められた産官学アドバイザー及び国際アドバイザーからアドバイスを受けることができる。これらのアドバイザーを GSS 副指導教員として選ぶこともできる。履修者は、毎年開催される GSS 産官学アドバイザー会議、GSS 国際アドバイザー会議へ参加しなければならない。また、これらの会議において発表を求められることがある。

8. プログラム履修者への支援

プログラム履修者には、リーディング博士課程における履修及び学位研究に専念するための以下のような経済支援を行っている。これらの経済支援期間は文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」採択期間の平成 30 年 3 月末までである。

(1) 特待生奨励金

以下の受給資格をすべて満たす優秀な履修者に対して月額 20 万円の特待生奨励金（27 年度実績 55 名：4 年次生 14 名、3 年次生 10 名、2 年次生 13 名、1 年次生 18 名）を支給する。特待生奨励金受給者の募集は、学期ごとに行い募集要項は 1 月中旬頃及び 6 月中旬頃に公表する。

なお、特待生奨励金の支給期間は、学期毎とし、前学期から引き続き奨励金の受給を希望する場合は、受給者は、奨励金受給継続願を指定の期日までに提出しなければならない。

- (ア) 本プログラムの履修者（本科生）
- (イ) 各種奨学金等の奨学支援経費（大学の定める授業料等免除は除く）を受けていない者
- (ウ) アルバイト等による収入を得ていない者
- (エ) 本学大学院の在籍期間（休学期間を除く）が 5 年を超えない者
- (オ) 本プログラムにおける成績等評価において特に優秀と認められる者

(2) 研究活動経費

研究計画を公募・審査し、独創的な研究活動を行うための経費として平成 28 年度については、年額上限 100 万円の研究活動経費（27 年度実績 60 名：4 年次生 18 名、3 年次生 10 名、2 年次生 13 名、1 年次生 19 名）を配分する。なお、金額は予算の関係で変更することがある。研究活動経費受給者募集要項は 1 月中旬頃及び 7 月下旬頃に公表する。

(3) プログラム履修経費

研究活動経費を申請しなかった者、及び研究活動経費の受給が認められなかった者については、年額 30 万円を上限に学会参加旅費等を補助する。なお、予算の関係で金額等は変更することがある。

9. シラバス

(a)～(g)の各履修カテゴリーのシラバスは、次ページ以降に掲載されている。

(a)の必修科目、選択必修科目、選択科目について

- 1) シラバスは平成 28 年 3 月時点で各研究科から提供された情報を掲載しており、体裁は各研究科の様式に準拠している。
- 2) 教員の異動や研究科のカリキュラム変更などによって変更や追加がありうる。変更・追加のあったもので次年度以後の履修要項に掲載される科目も履修可能とする。
- 3) 所属研究科以外の科目の受講には、所属研究科教務掛に聴講願を提出する必要がある。